

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
令和元年度第1回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規定に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されている。

委員は13名で、任期は2年となっている。うち1名は一般公募により選出されている。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催している。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

令和元年11月26日（火）14時00分～15時40分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

白井多賀子委員，田切美智雄副委員長，田中ひとみ委員，豊田雅之委員，中原常雄委員，藤原早苗委員，町田満委員，松崎里香委員，水嶋英治委員長，吉見剛委員

※事務局出席者

横山一己館長，熊田勝幸副館長，小川均副参事，北條薫管理課長，泉水正和企画課長，小池涉教育課長，中畷政明資料課長，荒井寿紀主査，湯本勝洋首席学芸主事，池澤広美首席学芸員，小幡和男首席学芸員，山中久司主査，吉田典子主査，芦川孝明係長，鵜沢美穂子副主任学芸員，高橋優華主事，福田彩香主事

5 議事概要

(1) 館長挨拶：

今年は台風による水害の影響が各地であった。当館の建物は影響がなかったが、企画展「宮沢賢治と自然の世界」のオープニングセレモニーができなかった。翌日も佳子内親王殿下が来館する予定だったが中止となった。今年は中期計画2015の総括の年となる。トイレの改修も終わり、その後も好調が続いており、今年は良い総括ができるのではと感じている。現在、年間の入館料収入が既に1億円を越えている。昨年度は1月に入ってから1億円を超えた。この総括を終えて、2020の中期計画を策定する。皆さんの忌憚なきご意見をいただきたい。今日も東京や千葉の学校団体が来てくれている。昨年からは県外の学校を有料化しているが、その影響は少ないようだ。中期計画2015からの反省としては、最も重要な収蔵庫の増築ができなかった。水害等、他に予算を優先せざるを得なかったかもしれないが、財政当局の理解も得て進めていきたい。

(2) 議長挨拶：

今年は災害が多い年だった。私が勤務する長崎歴史文化博物館でも台風当日は休館とした。首里城、川崎市民ミュージアムも被災した。川崎は、文化庁のガイドラインでは地下に収蔵庫を作るべきではないとしているにもかかわらず、それを無視したのが良くなかった。ある意味人災とも言える。収蔵庫については、全世界の8割の博物館が問題にしていると思う。長崎歴史文化博物館も不明資料が3点あり、議会でも問題になった。これも収蔵庫の使い勝手の問題。そのような収蔵庫のことなども、皆さんから忌憚なきご意見をいただければと思う。

(3) 議案説明（事務局）

議題

- ① 令和元年度前期事業の報告について
- ② 令和元年度後期事業計画について
- ③ 予算・決算などについて
- ④ 中期計画2020について
- ⑤ その他

(4) 質疑・意見交換

○議題 ①～④について

A 委員（中原委員）：

開館 25 年の努力に敬意を表したい。来るたびに学べるきっかけになっている。

中期計画について、この前の 2015 で ICT 化の項目があったが、2020 ではなくなっている。これから博物館としてどういう方向にしていけるのか。自然や科学に触れる良いきっかけになっているのはわかるが、博物館のこれからの役割について伺いたい。また、博物館魅力的かどうかは、「人」が大事。学芸員が熱意と情熱を持って、魅力的か。そのような人の役割についても聞いてみたい。

事務局（館長）：

中期計画の基本理念は難しい。理念に走りすぎてもいけない。今回の宮沢賢治でもそうだったように、まず来てもらうきっかけを作ることが重要。宮沢賢治ファンは普段当館に来ない。そのような人を呼びたかった。リピーターが来る博物館にしたい。人が来ない冬に人気のある宮沢賢治を使って企画展をした。野外も含めて自然を楽しんでもらいたい。

A 委員（中原委員）：

展示については、他の館はデジタル化を進めているところもあるが、こちらはどうか。

事務局（館長）：

当館はデジタル化だけに頼ることはあまり考えていない。現状の修理はしていくが、実物資料をメインとしていきたい。

事務局（中畷課長）：

中期計画 2020 に ICT の文字はないが、デジタルコンテンツを取り入れるという検討はしている。あくまで実物が中心であるが、その補助としてのデジタルコンテンツは必要と考えている。補足的に ICT 機器を使っていきたい。

B 委員（豊田委員）：

県外の学校が有料化になったメリットとデメリット、学校との連携を今後どうしていくのか、ワークシートを今後使うのかどうか、情報発信についての新たな取り組みはあるのか、について伺いたい。

事務局（館長）：

県外に関しては、弊害はなかったと言える。県外からの学校来館数は有料化しても減少しなかった。また、1 人 70 円くらいなら問題ないと言ってくれるなど、苦情はなかった。

高齢者有料化も大きな苦情はなかった。当館としては、最初は高齢者有料化は反対だったが、来館者は意外と好意的な人が多い。

学校連携についてはできるだけ多くしたいと思っている。講師派遣や移動博物館など、遠方であっても行くように努力している。多い年では、年間トータルで 100 件以上の講師派遣をしている。しかしスタッフの数は限られているので限界はあるが、できるだけ努力したいと思っている。

事務局（副館長）：

情報発信については、アンケートではインターネットで博物館を知ったという答えが 3 割ぐらいある。現在、ホームページを見やすいものにしたと検討している。SNS の効果が高いので、企画展ごとに、お客さんに良い写真を撮ってもらえるようなフォトスポットを用意している。

事務局（小池課長）：

学校連携について、教員研修への対応を積極的に行っている。博学連携の希望を取って大学からも希望があれば積極的に受け入れている。自然発見ノートは、配布をとりやめ、全てホームページからダウンロードできるようにしている。下見の際にホームページを案内するようにしている。

C 委員（田中委員）：

教育用貸出資料を web 公開したのはすごく良いこと。これを借りるのにどのような手続きが要るのが気になる。ここに取りに来なければならないのでは、利用が増えないのではないか。先生の負担が軽減されるような、例えば着払いで送るなどでよければ、利用件数も上がるのではないか。ファミリープログラム、利用者が少ないとあるが、これも web 公開にしてはどうか。動画などを使って、家族で楽しく学べることや利用方法がわかれば魅力が伝わるのではないか。幼児向け支援プログラムもあるとあるが、今、幼児向けの体験講座のニーズは高まっている。体験支援プログラムの充実は重要だと思う。

事務局（小池課長）：

教育用貸出資料は、遠方の場合は着払いにも対応している。壊れやすい骨格標本などは来館してもらっている。ファミリープログラムについては web 公開も検討している。利用者へのアンケート調査も進める予定。幼小ジュニアプログラムは、「落ち葉のお面でへんしんしよう」など 5 種類ある。

D 委員（臼井委員）：

展示用ガイダンスシステムを運営しているとのことだが、実際に外国人の来館者の人数

は把握しているか。

事務局（館長）：

数の把握はできていない。国立科学博物館は4%程度で、それよりも遙かに少ないとは思
う。外国人への対応はしていきたい。

D 委員（臼井委員）：

ガイドンスシステムは何台あるのか。

事務局（副館長）：

現在 20 台ある。スマートフォンでもアプリをダウンロードしてガイドンスを使用するこ
とができる。

E 委員（吉見委員）：

TX は、くだもの展で車内広告の展示をしてもらい有り難かった。中期計画 2020 の長期
的な計画で、常設展示のリニューアル検討委員会を立ち上げるとしているが、「大規模リニ
ューアル構想」は既にあるのか、そこから作るのか。

事務局（館長）：

リニューアル構想はここ 2 年くらい検討していて、既に立てている。本来であれば開館
30 周年に向けて来年度からスタートしたいが、あまりにも金額が膨大になりすぎて、なか
なか予算が付かない。今年度はせめて調査費を、と要望している。

E 委員（吉見委員）：

菅生沼は開館当初とはかなり変わってしまい、陸地化が進んでいる。最近、水質も良く
なく、油が浮いている気がするのが気になっている。博物館の大きな特徴でもあるので、
菅生沼をどう生かしていくかが大切ではないか。25 年間、どのような研究が行われて活用
されてきたのか、どう展示し発表していくのか伺いたい。マスコミに取り上げてもらう良
いきっかけになるのでは。新しい成果を発信し続けることも重要であると思う。

事務局（館長）：

菅生沼は土砂で埋まってきてしまっているが、工事事務所では、川筋を作って、土砂が
これ以上流れ込まないようにして沼を復元している。また、当館でもエコアップ大作戦な
ど、菅生沼の清掃活動をしている。タチスミレを保全する野焼きをしているのが一番大き
な活動かもしれない。200 人以上を集めている。

E 委員（吉見委員）：

その経過を常設展で見せていってもよいのではないかと思う。

F 委員（松崎委員）：

常総市の公立幼稚園は 1 年に 1 回ここに来させてもらっている。幼稚園児は文字はあまり読めないが、目に入る大きな恐竜などを楽しんでいるし、自然に触れる良い機会になっている。毎年のことになるので、幼稚園にいる 3 年間は同じ展示を見ることになってしまう。計画的にリニューアルされることに期待している。

G 委員（町田委員）：

海外姉妹館との交流について、今後どのようにしていくのか伺いたい。

事務局（館長）：

向こうからこちらに来るのは、当館を参考にしたいと思ってくれている。ロサンゼルス郡立自然史博物館は、これから何か一緒にやろうか、と提案してくれることになっている。だが、我々は海外出張の旅費はなく、対応が難しい。できるだけこの博物館でも海外研修ができる予算を取りたい。

H 委員（藤原委員）：

昨年の年報を拝見して、教育普及の資料が充実していてすばらしい、と感動した。米作り、竹炭焼きなど、里山活動はやってみたいと思う人も多くいると思うので、とても良いと思う。中期計画 2020 について、館長は基本理念は難しいと仰っていたが、素敵な理念だと思う。4～50 代の自分の友人に当館について聞くと、なかなか行く機会がないと言っている。そのような人にどう来てもらえるようになると良いと思う。私もまた宣伝します。

事務局（館長）：

そのような方にも来てもらえるような検討をしている。宮沢賢治展やさくら展もそのきっかけとなればよいと思う。まず、見てもらってリピーターになってほしい。

I 委員（田切委員）：

中期計画 2020 について、収蔵庫の増築をなんとか進めて欲しい。つい最近、茨城県の埋蔵文化財センターに行ったが、3 年前にできたばかりなのにもう満杯。中期的に見て、取捨選択し、収蔵していく必要がある。収蔵庫の増築も基本理念を持っておいた方が良い。

I 委員（水嶋委員）：

中期計画を纏めるのは大変だが、この使い方は色々ある。行政の理解を図るためにも、

館の方針を明確にしておいた方がよいと思う。

C 委員（田中委員）：

あすなろの里が無料になったというのは、博物館から行った時だけか。

事務局（館長）：

交渉し、昨年 9 月 1 日から完全無料となった。あすなろの里側から入るには当館の入館料が必要。

事務局（泉水課長）：

あすなろの里の入園料は無料となったが、施設利用料はかかる。